

■「専門研修課程Ⅱ」における課題作成についてのQ&A

- 問1 1事例に7類型全てが網羅されていれば1事例だけで良いでしょうか。
○1事例で7類型が揃っていても2事例は必要です。
- 問2 施設ケアマネなので7類型を揃えることが難しいです。
○7類型全て揃っていないといけないので、実際の事例がなければ家族や知り合いのことを思い浮かべて事例を作成してください。それも難しい場合はテキストの事例を参考として作成することもやむを得ません。
- 問3 介護サービス計画書は必ず必要でしょうか。
○演習の参考とするもので提出の必要はありませんが、発表の際の事例説明で必要となります。なお、地域包括支援センターの方は介護予防サービス計画書の様式で、小規模多機能、GH等の方は事業所で現在使用中の様式で構いません。
- 問4 介護サービス計画書は何に使うのでしょうか。
○グループワークや発表の際に事例説明の参考とします。また、介護サービス計画作成の見直しにも使用します。
- 問5 状態に応じた多様なサービスとはどのような事例でしょうか。
○多様なサービスとは、地域密着サービスや施設サービス等で、グループホームの入所やショートステイの利用なども多様なサービスに含まれます。
- 問6 社会資源はどこまで含まれるのでしょうか。
○介護保険サービス以外のフォーマル・インフォーマルサービスが対象となり、サービス、物だけでなく人も社会資源となり得ます。民生委員、栄養委員、公民館、カラオケ等も社会資源の対象となる場合もあります。
- 問7 施設入所者にとっての家族支援とはどのようなものでしょうか。
○施設入所であっても家族支援の延長線上に今の入所があります。コロナ等で家族が直接面接できなくても、家族への手紙やonlineでの面会も家族支援となります。
- 問8 看取りは対応していないので、看取り等における看護サービスの活用の事例がありません。
○看取り「等」なので看取りにかかわらず看護や通院、服薬など、医療との関りがある事例でも構いません。

- 問9 入退院時等における医療との連携の事例がありません。
○入退院等がなく医療機関と直接情報交換する機会がなくても、主治医の意見を踏まえサービス担当者会議を開催していれば、医療との連携の事例となり得ます。
- 問10 リハビリも福祉用具も利用した適当な事例がありません。
○7 類型が必ず含まれていなければいけませんので、リハビリテーションの視点や福祉用具の利用を想定して事例を作成してください。
- 問11 既に利用者が死亡した事例でも良いでしょうか。
○既に死亡した事例でも構いませんので、お亡くなりになる前までの状況に基づいて事例を作成してください。
- 問12 グループ演習の事例担当はどうやって決まるのですか。
○研修2日目の開始時間に各グループで7 類型それぞれの事例担当を相談の上、決定します。各グループは4名か5名で構成され全員が必ず事例を担当するので、1人が1事例又は2事例を担当することとなります。
各グループで、速やかに担当者を決定するようお願いします。
- 問13 課題様式の上部に事例類型（該当に○）とありますが、2事例で同じ類型がある場合は重複して○をして良いでしょうか。
○重複しても構いません。その事例に含まれる類型（キーワード）に全て○をしてください。
- 問14 提出課題チェックリストも提出するのですか。
○全ての項目にチェックが入るよう点検してご持参ください（提出不要）。
- 問15 提出課題を6部用意するのはどうしてですか。
○1部は講師用として2日目の講義開始前に指定の場所へ提出してください。
各グループは4名または5名ですので、演習用として5部が必要です。

【事務局からのお願い】

協会職員は事務職なので事例内容についての質問には対応しかねます。
専門職としてのご自身の経験や知識でご判断ください。

問い合わせ先
岡山県介護支援専門員協会
TEL 086-953-4953
MAIL web@gia-ocma.org